

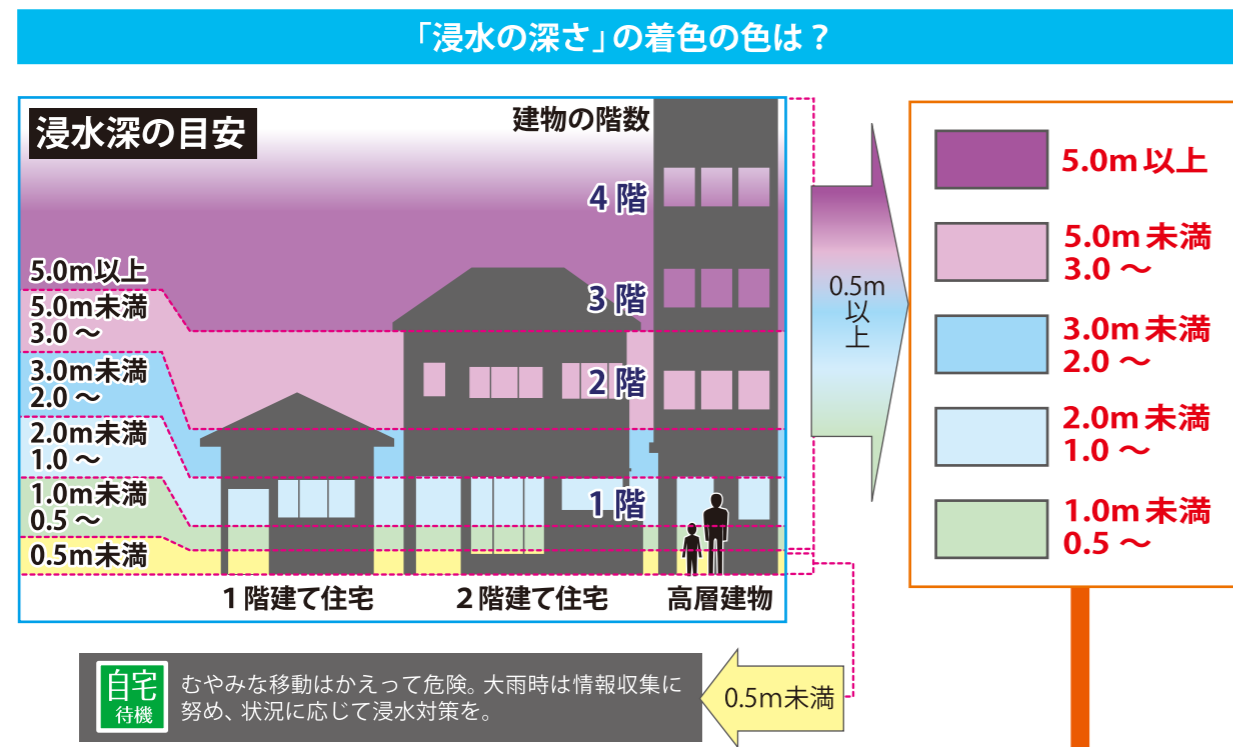
2-5 洪水・土砂災害からの避難を考えよう

大雨が続くと洪水や土砂災害が起こる危険性が高まり、ご自宅付近に被害を及ぼす可能性があります。お住まいの住居が戸建住宅であるか、集合住宅であるか（お住まいの階数が何階か）、付近に土砂災害の区域があるかないかにより、避難時のとるべき行動が異なります。このハザードマップを見て、いざというときの自分のとるべき行動を知りましょう。

●下のステップに従ってハザードマップを確認し、大雨時に自分がとるべき行動の目安を知り、いざという時に備えて平時から何が出来るかを考えてみましょう。

とるべき行動 (凡 例)	避難 河川等がはん濫する前に、早めに自宅以外の安全な場所へ事前避難を。	垂直避難 状況に応じて、建物の高層階に垂直避難を。	自宅待機 むやみな移動はかえって危険。大雨時は情報収集に努め、状況に応じて浸水対策を。
------------------------	--	----------------------------------	--

Step ① P17以降の洪水・土砂災害ハザードマップで自宅等の位置を確認し、周辺の「浸水の深さ」などを確認しましょう。



Step ② 戸建住宅でのとるべき行動の目安を知りましょう。

階 数	想定される浸水の深さ		
	0.5~3.0m未満 (1階部分が水没するおそれ)	3.0~5.0m未満 (2階部分まで水没するおそれ)	5.0m以上 (3階部分まで水没するおそれ)
3階建て	避難 垂直避難	避難 垂直避難	避難
2階建て	避難 垂直避難	避難	避難
1階建て	避難	避難	避難

戸建住宅

お住まいの戸建住宅の階数と、地図上での着色（浸水の深さ）を確認し、とるべき行動の目安を知りましょう。

避難を考える上での留意事項

- ①ハザードマップでは、最悪の事態を想定しています。加古川、法華山谷川、喜瀬川等のはん濫が起こることを前提に、避難を考えてください。
- ②ここで示すのは、大雨時にとるべき行動の目安であり、絶対的なものではありません。身の危険を感じたら、命を守る行動をとってください。
- ③被害想定がない範囲においても、絶対安全というわけではありません。もしもの場合を考えて行動してください。

Step ③ 集合住宅でのとるべき行動の目安を知りましょう。

集合住宅

お住まいの集合住宅の階数と居住階、地図上での着色（浸水の深さ）を確認し、とるべき行動の目安を知りましょう。

※集合住宅の場合、いざという時には、共用部分の廊下等へ垂直避難することができます。あらかじめ話し合っておきましょう。

階 数	居住階	想定される浸水の深さ		
		0.5~3.0m未満 (1階部分が水没するおそれ)	3.0~5.0m未満 (2階部分まで水没するおそれ)	5.0m以上 (3階部分まで水没するおそれ)
4階建て以上	4階以上	自宅待機	自宅待機	自宅待機
	3階	自宅待機	自宅待機	避難 垂直避難
	2階	自宅待機	避難 垂直避難	避難 垂直避難
	1階	避難 垂直避難	避難 垂直避難	避難 垂直避難
3階建て	3階	自宅待機	自宅待機	避難
	2階	自宅待機	避難 垂直避難	避難
	1階	避難 垂直避難	避難 垂直避難	避難
2階建て	2階	自宅待機	避難	避難
	1階	避難 垂直避難	避難	避難
1階建て	1階	避難	避難	避難

Step ④ 土砂災害からの避難を考えましょう。

